

『一心千里』

永田 隆一

走っていていれば、
見えてくる



第53回

人々は、日々の仕事や

暮らしの中で多くの人達と出会います。そして、それぞれの人生をつつがなく生きていくために、家族、友人、同僚、取引先の方と心地よい距離感を持って付き合っています。

筆者は、その中であって「この人の考え方、行動は素敵だな」と思うことがよくあります。いわゆる「共感」が生じます。そういう共感を持てる方々からアドバイスをもらったり励まされたりしますと、気持ち落ちつき「ああ、これでいいのだ。中途半端で、矛盾だらけで、それでもいいのだ」と、安心感がふんわりと溢れてきます。そうすると不思議なものでアクセルシブな挑戦意欲が高まってくる。元気の源です。

《鍛錬が共感の源》

人生には波風が付いて回るものであります。落ち込んで、打ちひしがれて、しばらく休んで、また立ち上がって、背筋を

方たちです。

《勉強になるのか》

「おい永田、勉強になるのか。ためになるのか。これは師匠の1人、奥村

安心と挑戦力を高めるのは共感であり 変化をもたらしるのは風変わりな人

事は地下の桃李の個室。

「人間は悲しいね。200kmの時速が出せるエンジン積んでるのに、50km、たまに100km。人生一度くらいアクセルを踏み込んでフルスロットルを体験してみると良い。僕はそうして生きてきた。違う景色が見えてくるのになあ。永田さん、あんたフルスロットルやってるかい」。

《恋愛では傷つかない》

「恋愛で傷つくのが悪いという人がいます。皆さん分かっていませんね。恋愛とは無償のはずです。業隠れには、思いを胸に秘め相手に悟られないまま死ぬ思い死に」という言葉があります。なぜ傷つくのか、簡単です、自分本位だからです。相手にこうしてほしい、ああしてほしいと、いつも期待していて、それが

いて、世俗的なことと

らわれない生き方が理想だな。清雅(せいが)、清らかで上品な美しさをもちた女性に逢いたいな。永田さん、そうは思いませんか」。

「鈴木サミーさん、どうしたんですか、素敵じゃないですか」。

「あっ、お菓子の時間で、智恵熱が…」。

《縁(えにし)を結ぶ》

「美しい山河に對峙して、ああ、素敵景色だな、あの人にを見せてあげたいなと思う。良い唄を聴いて、あの人この歌をどこかで聴いているかもしれないと考える。お寺や神社で手を合わせた時、どうかあの人健康でありますようにと願う。そういうったあの人」とは縁を結んでいる。永田さん、分かりやすいだろう」。

さて、今日から読者の皆さんには良いことが起きます。大きな良運が降り注ぎます。年の瀬に筆者は心からそう感じます。

(毎月連載)

伸ばして、遠くを見据えて歩き出す。そういう逆境を何度も乗り越え、他人の立場で考えることができるようになり、本や人から言葉を学び、共感という温かいものを提供できるよりに成長していくものでしょう。筆者が共感を覚えることができ

る方は、鍛錬によって、自分の価値観を押し付ける空しさを学ばれて、相手の立場に立って思いやる知性を身に付けられた

《ケンカしてるかい》

「技術だと分かりやすい。新しい技術が出ると、古い技術とケンカをするんだな。そして市場から追い出してしまふ。経営だ、人間だ、経営だ、これっていいわけ、という疑問が浮かぶ、何

度も考えを重ねて、既成勢力にケンカを挑む。よい良い改革を成すためには必要なことだ。永田ちゃん、ケンカしてるかい」。

《春風をもって人に》

「春風をもって人に接し、秋霜(しゅうそう)をもって自らをつつしむ、良い言葉です。枯淡(こたん)、あっさりとして